柏崎体育

発行所　柏崎市役所 柏崎体育団
発行編集人　月橋会
印刷所　柏崎印刷株式会社
定価一部15円
（毎月1回10日発行）

ディーム先生の想い出

森徳治

一

つい二、三日前のこと、六年の女生徒の母親の方が見えて、子供の教育のことで話し合つていたときのことであった。この六年の組は男女共学で、女生徒が十五、六名いるのであるが、彼の女らは団結していて反抗的で暗く、しかも生意気なしゃべり方をする習慣がついて、母親たちも持て余しているという話が出たとき妻が、「あの連中はスポーツを何もやらないで、いつもどこかの蔭にかたまってはおしゃべりしていたから、あんなになったんですよ」と言つた。私は妻のこの言葉を聞いたとき、いつになく「はっ」として、「その通りだ」と賛同した。もしあの子たちにスポーツの習慣がついていたら、事情は全く一変していたに違いない。生意気盛りのこの年頃にいちばん心配になる望ましくないこのような傾向の代りに、それこそ少女時代に望ましい健康で明るく、そして何よりも溌剌とした彼の女らになっていたであろうと、今更のように人間形成におけるスポーツの秘密とその貴さが偲ばれてならなかった。

ディーム先生のスポーツ理論に入ろうとしている私が道草したようであるが、しかし「はっ」とした私の経験を書きしるさずにおれなかったこの気持を許していただきたい。

二

動きの速度が非常に早いなかで思考と行動とが結びついているこの自動的熟練へ到達するためには、スポーツを七、八才の自動的熟練期から始めなくてはならないというディーム先生の思想は、わが国ではスポーツに限らざるすべての芸事でも、漁師や職人養成のばあいでも、すでによく知られていた。東北大学の成瀬政男教授の「技術者養成と年齢の研究も全く同一の結果を示している。ごく最近ではロン・ティ・ボーの国際コンクールで、ピアノのグランプリを受けた松浦氏「私は七才の時にピアノを始めた」と語つている。フランス知名の心理学者ピアジェが発見した幼児の世界像であるアニミズム（物話論）が制作主義に転換するのも七才であり、またアメリカのジョン・デューイは「七才児が好んで弓矢を作り、小屋を作りたがるのを教育上放つておいてよいのか」と訴えている。こう見てくるとやんちやの始まる七才という大切な時期が、はなやかな学齢六才の蔭にかくされてきた感が深い。七才は子供の生い立つ過程での一大転期であつて、この一大転期の意義を一層深めているのは、人間の生涯において心身一如の完全な姿で生い立つ時期に突入する唯一の素晴らしい時代であるということである。七—九才児に見るこの心身一如の生い立ちに基礎づけられていると私は見ている。私が機会あるごとに、「七才児を救え」と強調しつづけているのも叙上のような事情からである。

一般の家庭や学校では、おとなしい子であつたが近頃やんちやになつたとか、良い子だつたのに最近だんだん悪い子になつてきたとか言われて四方八方から非難されているうちに、ほんとに手に負えないやんちやになり、またほんとの悪い子になりかねないのである。自分でも自分を持て余すようなこの時期の子たちを救い、それに健康で明るい生き方と逞ましい未来への希望と幸福を約束するのは、何よりもスポーツであると私は考えている。

しかしさきのピアジェが「七、八才児には社会性は未だ問題にならない」と言つているほど対立意識だけが強く、ゲームは好きだがそのルールは尊重しないで、ただ勝ちさえすれば満足する時期である。だからずるいことやごまかしも平気でやる。

このような時期の子供だからゲームをやろうと言えば、どの子でも「やろう」といって飛びついてくるが、それをどう指導してスポーツを生活の習慣まで高めうるかが問題である。そのことについてディーム先生は次のように教えてくださる。いかなるスポーツも生活の習慣まで高めなければ役に立たない。そのためには三つの自由が子供に与えられなければならない。すなはち、いかなるスポーツをやるかというスポーツの種目選択の自由いかなる仲間とやるかという競技者選択の自由である。これら三つの自由が与えられるとき、子供たちは歓びのうちにスポーツができ、スポーツを終えたあとほんとに面白かったと満足し、したがつてかかるスポーツは習慣まで高めることができる」と。先生の思想の中から私のうけた感じでは、先生の自由の観念は容易に歓びという言葉で置き換えられそうである。歓びのあるスポーツの中でこそ子供たちは心身共に成長しうるのである。このスポーツにおける歓びという観念は、近代的体操の創始者であつたヤーン以来ドイツの伝統になつているように私は感じている。

私はこの七才から始まるスポーツの指導者に欠いてならないのは、ユーモアであるということを強調したい。ただ勝ちたい意識から平気でずるいことやごまかしをやる子たちに説教や訓戒は禁物である。この時期の子たちは、ずるいことやごまかしをやつたことを誰よりも自分で知つているのである。知つていてしかもやらずにおれないというこれへの最適、最善の指導はユーモア以外にはない。日本人に欠けているユーモアは、ユーモアが最初に芽生えるこの七—九才児時代に大人の説教や教訓のために殺されている。もしスポーツの指層者にユーモアがあるなら、この失われたであろうユーモアが子供たちの内部で急速に育つてくるであろう。これはスポーツが人間形成と結びつく大切な一つの面である。

次はこの時期におけるスポーツ種目の問題であるがディーム先生は、古代オリンピックの精神と方法と同じように多種目競技の必要を力説される。とくにこの自動的熟練期のスポーツにそのことは重要である。夏の水泳と冬のスキーやスケートは全部の子供にやらせたい。野球だけでなく、ラードやホッケー、バレーやバスケットなどのほか日本固有の角力、撃劍、柔道、弓術なども忘れてはならないであろう。そのほか地方の特性や地方特有のものなど考慮に入れるなら、まさにこの時期は多種目競技時代である。心身の調和的発育の必要からもまた各児童の個性的特技への成長から見ても、そのことは極めて重要である。

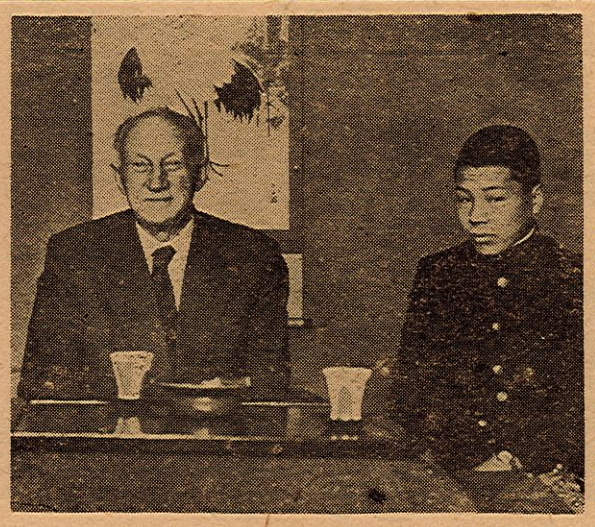
三

ディーム先生の名著、「アジアの騎馬競技」の一〇四頁からペルシアのポロ競技に関する歴史的叙述が始まつているが、私が心ひかれたのは、「ペルシアの『門遊び』から発達したポロ競技、そのポロ競技からホッケー、フット・ボール、ラード・ポロ、水球、ハンド・ボールと発達してきたのであるが、このポロ競技においては競技者と馬とが一緒になつて一つの教育協同体が、人は馬を教育し馬は人を教育するという特別な方法で成立している」という句である。今私は、ディーム先生の体操に関する思想をこの節で述べたいと思つていて想い浮んだのがこの句であつた。「人は馬を教育し、馬は人を教育する」というこの相互作用を生かした体操が、今後発達しなければならないだろう。

先生が持つて来られたケルン・スポーツ大学の映画でも、女子学生が大きなボールに紐をつけたのを持つて体操をしていた。また男子の学生は棒を持つて体操をしていた。単なる徒手体操でなく、物を持つ体操では、人と物との間における相互教育が生まれてくる。人は物を教育し、物は人を教育する」というこの過程においては、動きの流れも、その拍子も、そのポーズも人と物との相関の中から生ずるので、単なる徒手体操とは根本的に異なつてくる。したがつて徒手体操では動かし得ない筋肉の運動も自然に生じてくる。マットの上にころぶ子供に見るように、物を持つての体操には自然の喜びがある。「遊び」と「競技」は同語源から出ているように、人と物との間にはかる雰囲気が自然に生まれてくる。現在一般の小学校でも肋木、跳越台、鉄棒、マットなどの体操用具は設備されてきたようであるが、さらに各地方の踊の中にわれわれは、近代的体操への示唆を読み解く必要があろう。七—十二才児に、このような体操が与えられた場面を想像するだけでも楽しい。

次に私はディーム先生の所説の中から、七—十二才までの各年齢毎の疾走、巾跳、高跳、登攀、長距離などの平均値によるノルマを作り、各児童は各自のカードに自己の実績を記入してそのノルマと比較できるようにして、それらの向上をはかる対策を提案する。小学四年生に例をとろう。四年生という九才児に七〇米の疾走が適当とするなら、全校、全市、全県の四年生の記録を集め、その平均値が十四秒と出たとするならそれを九才児の疾走のノルマとして各児童はそれを標準に自己の疾走力を判定できるのである。ノルマは平均値から出発してだんだん標準値に近いノルマに変更されていくであろう。古代オリンピアに出場する選手たちは、水でからだを清め神殿を拝んで競技場に入ったのであるが、その神殿の額には、「お前の限度を守れ」とかかれていた。各々の子供が自分の限度で最善を尽す習慣ができると、スポーツや体操は常に楽しい生活の不可欠条件となるであろう。

いよいよ一九六四年のオリンピックが東京に決まった。世界史の示すところによれば、敗戦民族には常にスポーツが勃興している。不幸にして今日日本におけるこの勃興は、見るスポーツ、賭けるスポーツ、勝敗だけに狂燥するスポーツとなつて現われている。かかるブームに押し流されないという保障はどこにもなさそうである。これでよいのかと私は本誌を通じて柏崎市民諸賢に訴えたい。（一九五九・七・四）（教育科学研究所長）



岩戸屋旅館にて」（月橋写）
右は健民少年団　新沢久夫君

柏崎テニス昔噺

元デ杯選手　太田芳郎

大正七年と言えば、今から四十一年前、僕が柏崎小学校の最上級に在学していた年である。その翌年から柏崎を離れ、引揚げ等で記録も何も失ったので、これから書く人名等もいささか怪しいものもあるが、それでも四十年間僕の頭の一隅に残っている程印象的な少年時代の想い出である。

僕等の担任の先生は、大きな頭がツル〳〵にはげた通称「タコ」小林先生で、大のカンシャク持ち、或る時紙屋の少年内藤治助が、校舎の一番はずれにあった僕等の教室の外の松林で、大声で「タコー」と叫んで逃げたのを、「ニン〳〵」と歯を喰いしばつて追いかけてつかまえ、ポカ〳〵となぐったことがある。

その組には、南町の浜（治三郎）北条の室賀、西中通の川合（政一）新花町の森（寿治郎）正明寺の小林、荒浜の品田等と、テニスでは一かどのさむらいが揃っていたので、着物の裾をはし折つて、ボールが見えなくなるまで打ち合い、それから中通の曾地まで下駄をポコ〳〵鳴らして帰った。朝には霧を踏み、夕には星を頂き、二十余キロを往復し、腹がすけば畑の生芋を失敬してかぢり乍ら通学したことは、後年、国際テニスマッチに参加してからも、大変感謝すべき練磨の一年であった。日本人は体力が外人に負けるというのは当らない。先輩熊谷一弥氏（日本の生んだテニスの世界的選手）が僕に教えて下さったことがある。

「試合の日にカン〳〵に日が照って暑苦しい時には、今日は勝ったと思った。相手がへばるのを勘定に入れられるから」と。僕も同じ経験をしている。日本が、マラソンや卓球の様な体力の要る競技で世界的なのを見ても、体力がない等とは言われない。体は小さくても、練磨によって体力は鍛えられる。体力は練磨の深度の問題であり、一通りのことをやっていたのでは、他にぬきんでることは出来ない。熊谷、清水両氏とも中学五年間二十余キロの徒歩通学をしている。

さてその時、比角の青年村長洲崎さんも三十歳位でテニスも強く、洗濯でクタびれてフチの下った帽子をかぶり、硬式そつくりの打ち方で、少し切れ目に矢継早に打ちこんでくる難球は僕等の目には神技と思われた。ある時、その洲崎さんの発案で中学、小学の対抗マッチが行われ、村長さん自らアムパイヤ台の上に乗ってカウントをとって下さった。

小学校側の引率の先生は頭にゼニ型のハゲのある所から「チャカ」で通った村山先生と、あごの出張った戸田「ベトウマ」先生、中学側では、宝田石油社長のムスコ田代等がガン張ったが、僕と室賀の組が五組が七組を倒して勝った。

その時の中学側の野次たるや全く大変なもので、声をそろえて「チャカ〳〵」「ベトウマ草喰え」とはやし立て、遂には誰かが馬のわらじを見付けて来て戸田先生に投げつけたので、ベトウマは大いにあばれて中学生の中に駈け込み、チャカ先生が必死に手綱を引きもどす一幕もあった。中学生の中で、何年も落第したのだろう、アゴヒゲの生えたのが、コートの外から竹の箒で僕のラケットを撫でうしろを振り向くと「ヤイチンピラ、オレのツラをおぼえておけ、あしたアイサツをしてやるゾ」とにらまれたのがこわくて、その後暫くは中学の前を避けて登校した位だった。

四十一年も昔のことだがこの文を読んでくれる当時の人があったら、「タコ」や「チャカ」「ベトウマ」先生達のことを、なつかしく想い出してくれるだろう。

僕が新潟師範に入学してから、洲崎さんは、当時日本一だった早大の上田、福田、西本、三上等の名選手を招き、夏季練習会を開かれたのでお柏崎は夏の全日本テニスセンターとなった。

大将洲崎の後衛井上師（井上敬英氏）がお経できたえた妙に透るかけ声と共に横なぐりに打ち出す棒の様な直球、花見手拭を腰にブラ下げて、三階節のおどりの腰つきの低姿勢で打つ僕の後衛の遠藤（遠藤寅一郎北野屋主人）粋な桑山さん（桑山平尉氏在小樽）一ツ橋出の山崎さん（山崎八郎氏在東京）等地元選手と久柏陽クラブがあったが、吾が柏陽クラブは断然他を抜いていた。

昔を今に返すように、若いテニスマンへの期待を持ちたい。

森徳治先生について

柏崎体育四七・四八両号に「ディーム先生の思い出」について書いて下さった森徳治先生は現在日本教育科学研究所々長、東京都世田ケ谷区砧町五六にお住いである。著書多数出されているが主なるもの一、二を拾うと「デューイ＝岩波」「明日の学校＝厚生閣」「技術の生い立ち＝牧書店」があり、訳書には「子供のからだ（シュトラッツ）＝創文社」がある。ドイツ・マールブルグ大学卒業、成城学園で教鞭をとられたこともある。柏崎へは何べんも来ておられ、学校で講演していただいた事もあり、指導的立場の者が色々の意味でいつも御教示を仰いでいる現状である。柏崎との結び付きは都市体育研究協議会や健民少年団がその縁結びであつたが、この事でもわかる様に先生のこの方面への情熱と研究は誠に深く高いものがある。本誌の一文はディーム先生の言行ではあるが、読む人のすべてが、ディーム先生を透しての森先生の像、青少年体育に対する森先生の深い愛情、そしてこの二つを結んで見て、我々の青少年体育に対する乏しさを痛切に身にしみて感ずる事と思う。（月橋記）

柏崎体育団事業方針

昭和三十四年度に於ける柏崎体育団の事業方針を次の通り決定した。

一、柏崎体育団組織の充実

1 柏崎体育団事務局員の改選
庶務部長　根立政信
宣伝事業部長　渡辺五郎兵衛
学校体育部長　石橋敏正
社会体育部長　坂田四郎吉
調査研究部長　田中斉
尚副部長は体育団青年部からの推選もあるのでそれに委嘱することゝなった。
2、末組織各種体育（スポーツ一団体組織の確立）
3、柏崎体育団青年部の育成

二、綜合体育（スポーツ）施設の補修と建設

1、市営陸上競技場の検定対策
2、各種市営施設の補修と管理、運営方法の決定
3、綜合体育施設の建設

三、青少年体育振興への具体策の確立

1、健民少年運動の推進
2、ユースホステル、健民少年の家の建設
3、県青年大会の準備
4、全国健民少年交歓大会の誘致

四、市民体育行事の技術的支援

1、各市民区域に委ねた市民運動会の技術指導
2、夏季市民体育行事の支援
3、秋季市民スポーツ祭の完全実施

五、体育指導委員及び推進委員への協力

六、各種体育（スポーツ）団体行事の完全実施

七、各種体育（スポーツ）の技術の研修と推進

1、来柏各種体育（スポーツ）団体との交流
2、各種体育団体に於ける研修会等の開催

八、柏崎体育団の財政の確立

1、補助金の確得
2、賛助会員制度について
3、募金、興業等に於ける収入

九、機関紙「柏崎体育」の発刊

1、編集会議の構成
2、原稿、記録の提供
3、柏崎体育史の編集

十、その他体育団に関する行事の完遂

社会体育に関する実態調査

わが北園町の場合(五)

坂田四郎吉

七、体育運動をやらぬ理由（続）

5、は運動はやりたいが指導者がないのでと訴える者十人であるが之れは指導者並びに指導機関の不備を訴える者であり、単にわが北園町の問題ではなく、全般的の実状であるが、之れと似た問題に

6、の運動はやりたいが場所がない、六人

9、運動はやりたいが用具がない、十五人

の二問題がある。何れも実状であつて、設備並びに機関の不備を訴えているものであるが、これは本人の熱意の如何であつて、現在と雖も解決出来ない問題では決してない、要は体育運動への理解と実際環境の低調によるものではあるが指導者たる吾々の責任に於いて、一日も早く之れを解決してやらねばならぬ問題である。

7、不器用で出来ない。五人は一様尤もの事ではある、生れつき巧緻運動のまずい者があり、何をやつても上達しない者もある。然し乍ら、不器用であればこそ尚更必要であり、体育運動によつて巧緻力を養う事が大切なのである。然し出来なければ興味がない、人前がわるい。かゝる人を如何にして体育運動に親しませるかは一に体育指導者の技術であり、その熱意に待つべき問題である。

8、運動はきらい、六人も、その原因は不器用で出来ないから嫌いのもの、運動不精のもの、理解がないなどによるところであろうが、啓蒙と指導力に待つ外はない。

10、家族が反対する、二人

11、仕事のじやまになる六人

これが無職の者、有閑と見做される者、又は学校、店員のみである。

12、身体が悪いから来ないと訴える者が十八人であるが、病身で全々体育運動をやれないと云つたようのものは此の中に一人も居らぬのである。よし身体病弱者なればこそ一層体育運動によつて健康増進の道を講ずる事が大切である事を忘れているわけである。体育運動とは、球技又は競技等の猛烈なトレーニング又は試合を思い、各々の健康や体力に応ずる方法をわきまえぬ者の考えである。

13、のやつたことがない十四人

の中には、六十才余の老人も二人あるが、あとは何れも三十才前後の若主婦のみである。

兎に角以上の集計から見ると百十九人、即ち全体の六五、四%の者が、現在体育運動から遠ざかつて居るわけであるが、そのうち、指導者と場所と用具さえあれば運動をやりたい者二二%を差引くならば四三%の者が、全々体育に関心を有たぬ者となる事となるのである。これに対して如何なる方法をとるべきか、之れについて次回に愚考披瀝し各位の御指導を仰ぎたいと思つている。

実践家めぐり (8)

柏崎野球界の至宝 松原賢治さん

―審判技術随一―

紫楼生

正に野球ブームの今日柏崎に於ける年幾百回の試合毎に、審判員として正確公平の名審判で野球人審判の的である松原さんを柏崎駅前の小林木材の事務室にお訪ねしました。

松原さんは、元柏崎町役場に居られたようでしたが、何課にお在でありましたか。

財務課に十年居りましたが、昭和二十一年にこちら（小林木材）へ参りました。

お忙しい中を、よく野球界の発展におつくしですね。

「野球界のために奉仕をする。」これが、私の趣味と云うより、まあ信仰とでも申しますかね。あの千変万化の球を選んで判定する、その瞬間々々が、私には言うに言われぬ快感？とでも申しますか、その心境がこうさせて居るわけですね。

審判はそこまで行かなくてはならぬと思いますが、それは結局審判技術の研究と多くの経験とによらねば到達されぬ処でしようね。

まあ、そう云うわけですね。最初審判に立つことが気がかりで胸がどき〳〵するし、判らぬ球があって即断しかねて困りましたよ。

抗議を申し込まれたときの審判役は大へんですね。

しかし今日は、審判に従うと云う、フェアプレイの試合道義が高くなったからよほど楽にはなりましたよ。

夫れも、あなたの技術がもの云うからでしようね、文句をつけられぬ審判。

いやそれどころではないのですが、一般に野球に対する理解が高くなったからであると思いますよ。

松原さんは、野球をいつ頃から始められましたか。

小学校時代から好きでしたよ。

選手として最も活躍されたのはいつ頃ですか。

昭和三年頃から東京青山の呉服やに居たのでした。神宮野球場のすぐ前の竹中呉服店でしたので附近の人達と十五六人でオール青山と云うチームを作って、よくやりました。当時のことは今思い出しても胸が轟きますね。そして昭和六年には、神宮球場で行われた、実業団の大会に優勝したのでした。実際あの頃は愉快でした。その余韻が心の奥に消えないで、今尚グラウンドに立つと、当時の感激が湧き上って来る。これが又私をして野球に奉仕させて居ると云うものでしようか。

聞いても胸がぞく〳〵するようなお話ですね、実際立派なよい体験を持つことは倖ですね、人生をどんなに明るくするか知れない。それが、スポーツならではと云うところですね。

まあ、そんなところですね。

現在、柏崎では野球の試合はどれ位ありましようね。

大会の数は約七十、試合は七百を突破するでしようね。

すばらしいですね。その勝敗が松原さんの審きによるそうですが、偉い御勢力ですね、ずつと審判長をおつめのようですが。

皆様の御厚意で長くその光栄にありましたが、今年拝辞させて頂きました。そして柏崎野球連盟審判部顧問を仰せつかったわけです。

中々御苦労様ですが、最近球団をお作りになつたよしですが。

一昨年作りました。エラーズと云う、年翌者同志二十八名の集りです。勝敗をぬきにして、ゲームを楽しむ、そこにお互いの親善と、人生のよろこびを持つようにしたいと思います。

いいですね、日本人はとかく早く老い込んでしようがないですが、みんなが何とか工夫をしてスポーツに親しみ、いつまでも健康と若さを保つようにしたいものですね。

松原さんは、柏崎体育団から野球界の功労者として表彰されたようでしたが。その外に県の（野球協会）からも受けましたが恐縮して居ります。

松原さんは謙譲でいらっしやるから、人目に立たぬように、黙々として野球界の発展に捧げる、その態度は尊いものですよ。正に柏崎野球界の生き神様ですね、それではお忙しいところをお邪魔いたしました。

越佐小唄 踊座 民育 体講

内容

①県民の誰でも楽しく出来る県民のレクリエーションであること
③県民の情操陶冶と身体機能の向上を図ること
④越佐小唄に合せること

【注意】

①踊りの体形は円陣を作り最初円の中向の姿勢から始まる
②民踊風な踊り方で唄の何処から踊り始めても良く又どこで終つてもよい
③⑥の交叉廻転がむずかしい場合は歩いて廻つてもよい

①円の中を向く
（一図）
一、二…右足を一歩右に開き両手を横に開く
（二図）
三、四…左足を右足に揃え両手を前に合せる
（三図）
五六…一、二を左方に
（四図）
七、八…右足を引きよせる

②円に添つて左を向く
（五図）
一、二…左を向くと同時に左足を一歩前に出し右手を前に左手を横に挙げる
（六図）
三、四…左足を後ろに引いて左手を前に右手を横に変える
（七図）
五、六、七…左足から三歩歩いて其の場に左廻り
（八図）
八…右足先を左足の後ろにトンとつくと同時に両手をかざす

③円の中を向く
（九図）
一、…右足を前に踏み出し左足を後ろに挙げて両手は軽く拳を握つて前から横に開く
二…左足を元にかえす

（十図）
三…右足を後ろに引いて左足を前に挙げ体前にて一回拍手を行う
四…二の動作を行う
（十一図）
五…一
六…二　と同じ
（十二図）
七…三
八…四　と同じ
④円の外を向く
（十三図）
一、二…九図と同じ
（十四図）
三、四…十図と同じ
（十五図）
五、六…十一図と同じ
（十六図）
七、八…十二図と同じ
⑤円に添つて右を向く
（十七図）
一、二…④の位置から左を向いて右足を踏み出し左足を前に蹴出して手は自然に振る
（十八図）
三、四…左足を踏み出し右足を前に踏出し手は自然に振る
（十九図）
五、六…右足を前に踏み出し左足後ろに挙げ体前にて拍手する
（二十図）
七、八…左足から五、六の動作を繰返す
⑥円の中を向く
（二十一図）
（二十二図）
一、二、三…右足を左足の前に交叉し両手を右に流しながら、
（二十三図）
四、五、六…其の場に左へ交叉廻転して両手を横に開く
（二十四図）
七、八…左足を右足に揃えて大きく一回拍手を行う

インターハイ県大会
柏崎勢大活躍
陸上・バレー・庭球・バスケット

秩父宮賜杯第12回全国高校陸上競技大会
新潟県及び信越大会をかえりみて

◇県大会は十日町と一位を分ける

高校アスリータアが目指すメーンエベント全国大会の県予選大会が六月六日、七日新潟市白山競技場に県下の九五校、七五〇名を集めて開催された。

柏崎より六カ校七〇名の選手は冬期練習、合同強化練習会と捲まず続けた成果をこの日にかけて〝陸上柏崎〟の名にかけて万丈の気を吐いた。

その戦果は綜合優勝を44点で十日町高と同点一位ながら種目数三対二で惜敗した柏高と少数選手ながら柏工高の五位、女子では常盤高が三位となり、柏崎勢の活躍は目ざましかった。

主な記録次のとおり＝柏崎関係＝

【男　子】

△一〇〇米②小山勝弘(高) 11秒2

△二〇〇米②小山勝弘(高) 23秒9

△四〇〇米②赤沢敏夫(商) 52秒2

△一一〇米H④下条謹司(工)17秒8

△八〇〇米R②柏高(朝日奈保隆、青木稔、松崎日出男、小山勝弘) 1分37秒0

△走巾跳 ①小山勝弘(高) 6米51

△走高跳 ①山崎勝弘(高) 1米76

△棒高跳 ③内山哲夫(高) 3米20

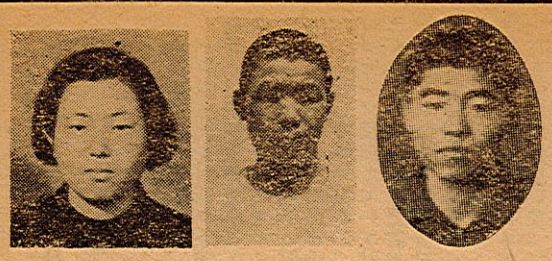
△槍　投 ①金田広孝(工) 47米32

△ハンマー投 ①金田広孝(工)47米03 ②上野　洋(農) 40米35

【女　子】

△一〇〇米 ③五十嵐照子(高)13秒4

△円盤投 ①重藤昌子(常) 30米27 ③母袋悦子(常)28米30



【写真右より小山、金田、重藤選手】

突を展開した。

中でも当市柏高の活躍は目ざましく堂々35点を獲得四回目の優勝を遂げた。同校の山崎は走高跳に1米81の大会新を樹立し、又小山の短距離、巾跳、継走の活躍、棒高跳に3米40の内山と同校優勝の原動力となった。

そして四〇〇の赤沢（柏商高）52秒1＝二位、一一〇米Hに16秒3の下条（柏工）の五選手は共に二年生で、今後の成長が大いに期待される。

又八〇〇継走に柏高チーム＝朝比奈、猪俣、松崎、小山＝1分51秒1と柏商高チーム（丸田、藤巻、村山赤沢）1分51秒4＝二位と信越大会新記録を打立ったことも特筆すべきであろう

ハンマー投45米83で優勝した金田（柏工）、女子では円盤投に30米47で優勝した重藤（常盤高）の活躍もあった。

全体に年々高校記録の更新は目を見張るものがありいよいよ来る八月七、八、九の三日間、国立競技場で開催される全国大会に駒を進めるわけだが郷土の選手の活躍をいのり報告とする

―柏崎陸協事務局―

市内高校野球リーグ
柏高優勝
春季リーグ（6月）

高8A―6商高
高4―3工高
高12―3農高
高22―1短大附高
商高9―1農高
商高7―1短大附高
商高3―2工高
工高6―4短大附高
工高3―1農高
農高9―1短大附高

柏高団体で優勝
―庭　球―

全日本、北信越高校軟式庭球大会新潟県予選会は女子の部＝六月十三日、十四日於柿崎町営コート、男子部六月二十一日、小千谷コートに於いてそれぞれ開催された。

戦跡次のとおり

◇女子の部＝89組

【団体戦】

【準決勝】

柏崎商2―0沼垂高

小千谷高2―1柏崎常盤高

決勝

小千谷2（3―4、4―3、4―0）1柏崎

個人戦

【準決勝】

小布山(垂井)4―2小島(商)

川(沼)4―2渡辺(柏)

【決勝】

小布山川4―3渡辺井

◇男子の部＝41カ校三二八人

団体戦

【決勝】

柏崎商2―0柏崎高

難波川4―3村山大

村山4―3牧岡馬場

個人戦＝準決勝で県下NO1の難波、大川組敗る

【準決勝】

牧岡(高)杵淵(柏)4―3難波(商)大川(柏)

村山(高)小山(柏)4―3小川(潟商)石井(新)

【決勝】

村山小山4（2―4、4―0、5―3、7―5、4―2）1牧岡杵淵

第八回全日本高校柔道大会県予選会兼新潟県高等学校柔道大会
期日　6月21日
場所　柏崎工業高校
参加校　14カ校
戦跡次のとおり＝柏崎関係のみ＝予選リーグ

農高9―1短大附高
高8A―6商高
高4―3工高
高12―3農高
高22―1短大附高
商高9―1農高
商高7―1短大附高
商高3―2工高
工高6―4短大附高
工高3―1農高

北信越高校新潟県予選会
於新発田市営球場

新発田商高 0000 0
柏商 00000 0
00000 0
00000 0
00100 1
00100 1
00000 0
00100 1
00100 1
00000 0
00000 0
00000 0

一、三〇〇人が相競う
二十市職球技大会

期日7月25日・26日
場所　柏崎市
戦績次のとおり

【野球】20チーム
準決勝
柏崎1A—0新発田
長岡7—3高田
決勝
柏崎5A—4長岡

【バレーボール】
男子11チーム
女子8チーム
男子の部
準決勝
柏崎2—0直江津
新潟2—1長岡
三位決定戦
直江津2（21—14, 21—11, 15—21）1長岡
決勝
柏崎2（21—15, 21—16）0新潟

【女子の部】
準決勝
高田2—0新潟
柏崎2—0新井
三位決定戦
新潟2（21—17, 16—9, 21）1新井
決勝
高田2（21—11, 13—11, 21—15）1柏崎

【卓球】男子20チーム　女子17チーム
リーグ戦

男子決勝リーグ

	長岡	五泉	十日町	三条	得点	順位
長岡	＼	3	3	1	7	2
五泉	1	＼	0	0	1	4
十日町	1	3	＼	1	5	3
三条	3	3	3	＼	9	1

女子決勝リーグ

	柏崎	村上	五泉	栃尾	得点	順位
柏崎	＼	1	0	0	1	4
村上	3	＼	3	1	7	2
五泉	3	0	＼	0	3	3
栃尾	3	3	3	＼	9	1

【バドミントン】
（リーグ戦）
男子8チーム
女子6チーム
三位決定戦
長岡3—2高田
優勝戦
新潟5—0新発田

【女子の部】
三位決定戦
三条5—0長岡
優勝戦
新発田3—2新潟

【軟式庭球】
男子の部
団体戦＝7チーム
優勝　小千谷
準優勝　新潟
三位　柏崎市
個人戦＝33組
（四回戦）
清水（新潟）4—3岡田
長谷川（小千谷）
宮島（附見）4—1栃堀
佐藤（柏崎）
榎本（長岡）4—3星野
風巻（笠原）
仲川（千谷小）4—1米山
宇佐田（附見）

準決勝
清水（新潟）4—3宮島
長谷川（附見）
川井（千谷小）4—0榎本
仲（長岡）
三位決定戦
榎本（長岡）4—2宮島
風巻（佐藤）
決勝
川井（千谷小）4—1清水
仲（新潟）

女子の部
個人戦＝4チームリーグ戦
優勝関川、佐藤組
準優勝　目黒、山谷組
三位　石塚、久保組
四位　栗林、田村組
ミックス＝7チーム
準決勝
長谷川（新潟）4—1川井
佐藤（小千谷）
長沢（新井）4—3清水
宮本（新潟）
決勝
長谷川（新潟）4—1長沢
佐藤（新井）

【バスケットボール】
男子7チーム
準決勝
新潟91—56栃尾
両津67—27新発田
三位決定戦
栃尾58（37—20, 21—20）40新発田
決勝
新潟66（42—23, 24—20）43両津

第九回新潟県中学校上越地区野球バレーボール大会
柏崎刈羽予選会

【野球の部】7月4・5・6・7日（雨天延期）
一回戦
田尻3A—1荒浜
南鯖石9—1中通
第二11A—4内郷
二回戦
田尻5A—1渋海
二田5—3第四
北条16A—1石地
南鯖石5—3第一
刈羽中11—0高柳
米山22—2高浜
第三8—1鯖石
第二2A—1西中通
三回戦
田尻中4A—1二田
南鯖石5—0北条
刈羽9—1米山
三中12—1二中
代表決定戦＝上越大会2チーム出場
田尻4A—3南鯖石
刈羽3A—0三中

【バレーボールの部】7月4・5日
◇男子の部
一回戦
内郷2—0西中通
二田2—0荒浜
第一2—0田尻
二回戦
内郷2—0北鯖石
城北2—0高浜
高柳2—0二田
第一中2—0渋海
代表決定戦＝二チーム上越大会出場
城北2—0内郷
第一2—1高柳
女子の部
一回戦
鯖石2—0上小国
鵜川2—1北条
南鯖石2—1石地
第二2—0石黒
二回戦
第四2—0鯖石
鵜川2—1刈羽
第三2—1南鯖石
中通2—1第二
代表決定戦＝四チーム上越大会出場
第四2—0鵜川
中通2—0第三

毎月毎月よくあきないでやって来るな。一体何回になったんだい。もうそろそろ切り上げないと年寄りのくせになどとおどしに来る奴もいようから今回が愚老のスポーツ界に対する遺言のつもりで言おうか、アハ、、まあそう悲しげな顔せんでもよいよ。悲しいのは愚老の方だよ。何が悲しといったって、第十回のロスアンゼルスにあったオリンピックには四〇〇米一つが日章旗があがらなかっただけ、他の男子種目は全部日章旗があがったのだよ、何がって水泳さ。そんな素晴しい水泳が、メルボルン大会に優勝したのは古川だけとは何と情ない事だと思わないかい。陸上競技のだらしないのとは違って、水泳こそはと思っていたのにこの水泳さえその通りのざまでは先が思いやられるよ。

この間所用で一寸上京して水泳の友人にあった所、濠洲選手から学んだ所だとか何だとか言ってインターバルがどうだとか、クロールの手の突込みが日本選手は伸して入れるのを、あちらの選手はやゝ屈げて短く入れるのだとか言って、今それを日本選手が盛んに練習しているのだそうだ。

こんな話をきいたら、のんでいたビールがとたんにまずくなってしまったよ。情ない奴等だな。インターバルだとか何だとかもっともらしいことを言うが煎じつめれば短距離を延ばすか、長距離を縮めるかと言うことでしかないじゃないか。陸上競技で村社講平選手が血のにじみ出る様な練習をやって、ベルリン大会でヒットラーに日本怖るべしと認めさせた走法は今日本の水泳界が一生けん命になってやっている即ちインターバル何とかだよ。陸上競技でも、水泳でも原理はちっとも変らないのだよ。手の使い方だって、何も今更珍しい事じゃないよ。ボートのピッチを見たまえ、ピッチをいくらにするかにより撓の入れ方が違って来るのだよ、身体の軀幹が舟で、手は撓、足首はスクリューであるのが水泳だ、科学的に考えればすぐ明確に出るよ。足首の堅い奴が自由型の選手に向かない位は君だって知っているだろう。油の足りないまわりの悪いスクリューだからなのだ。何とかいう選手がいたなら、バタフライの選手だったら、、、

又新潟県出身のレスリングの選手が何人かソ聯遠征をしているが、連中が帰って来て言う所は、口を合せた様に一致している。それは最初は余り苦労せず勝っ事の出来る様な相手選手が、二三回する中に減法強くなって、とても手古ずるのだそうだ。色々研究して見たら、試合毎にあらゆる角度から、高速度カメラで詮君勝つ事が目的だよ、タッチの差で勝っても、五〇米以上離して勝っても、その価値は同じなのだ。勝ためには戦法だよそして技術だよ、練習量の差で勝つと言うのは同じ技術、同じ戦法の場合だよ。山中がどうしても濠洲に勝てないのは即ちこれだ。ロスアンゼルスで圧倒的猛威を振った時は日本水連は高らかに「日本式泳法」という事を言ったものだ。今日果して日本式泳法ありやと問いたくなる。泳法は固定せず、絶えざる反省と研究と改造意欲が必要なのだ。これを科学的態度という。今日の日本は水泳のみならずすべてのものに必要だよ。イヤドウモ固い話になったな。所でだ。長い船はスピードが出、巾の広い船は安定であるという船舶の方の原則がある。じやあ、外人には背の高いのが多いから水泳は速い筈だなどと早合点してもらっては困る。これは外洋で浪の高い場合を前提にしての話だ。同じく四〇ノットの速力を出し得る大型巡洋艦と小型駆逐艦を浪の高い時走らせたら必ず巡洋艦が早くつく、しかし浪のない時なら同じになる。浪による上下の差が駆逐艦は大きい事と、スクリューの空転なども起きるからである。プールじやこの心配はない。水泳は身長による速い遅いはないから安心して練習をやりたまえ。たゞしだ古川などのやった潜水泳法は、わしなど最もよい日本式のものと思っていたら、国際水連で禁止されてしまった。日本の力が弱いんだな。どうしても強くなって、国際会議の席上発言力が強くならなくては嘘だよ。新しい方法を編み出しても、それを封じこめられるおそれがある。とにかくこうせり合って来たら新戦法を産み出さなくては勝てないよ。人のやった事の真似だけじやだめだ。サア研究だぜ、頭だぜ。大いにがんばってくれたまえ

スポーツ戯評（9）
（水泳）
三階老峯

どん〳〵写真をとり、それでジツクリこちらの戦法、技術を研究してやってくるのだそうである。どうだい君、こゝだよ。この研究心とこの態度だよ、濠洲選手を日本まで連れて来なくては、このやり方がわからぬと言う事それ自体、何かどこかに大きなものが抜けていると思わないかい。勝負の世界というものは、所が、アメリカのキツパス監督か何かに目をつけられて、アメリカ留学をやったわけだ。所が彼が新聞だか何だかに報じた所によると、ゾールでさんざん水中写真をとられたのだそうだ。それは彼のドルフィンキックのやり方の秘密を見たかったのだ。

徹底的に写真をとってしまえばもはや用なしさ

野球大会に柏崎市代表は、理研、中村石油、市役所の三チームとなつた。新潟市白山球場に於て各市と対戦する事となる。

× ×

新潟と言えば、本年の県青年大会は新潟市に於て行われる事となっているが、何か開催方法をめぐつてモタ〳〵しているらしい。妙な噂が柏崎あたりまで洩れ聞いて来ている。県青年団体協賛関係者の全面的協力を希うと共に、この事により青年大会の後退がないよう自重を要望する。

× ×

昭和三十五年の県青年大会は柏崎市と決定しているさて悩みの種は野球で、二十市・十六郡が仮に全部出るとしたら三十六チームである。これを三日間でやるとしても三十五試合の多きをどう捌くつもりかである最少限五球場いるが、こうなると西中通中学、田尻中学の不完全球場を使わねばならない。アーほしいのは数多くの球場だという野球関係者の気持はよくわかる。

× ×

それにつけても、柏崎市の中学の屋外運動場は余りにもせますぎる。拡張の余地のないのは致し方ないとしても、拡張出来るものは是非拡張してほしい。そして一中、北鯖石中の様にこれからつくるものは是非野球をやるに充分のものとしてもらいたい。特に北鯖中学ののは目下整地中であるがこの線に副う善処を祈ってやまない。

× ×

県内二十市対抗球技大会は大盛況裡に終った。別掲の如く柏崎市は男子の野球排球に優勝したが、この優勝をめぐつて隠れ話も中々ある。中でも傑作は閉会式がすんでもまだ汗みどろで悪戦苦斗している野球の決勝戦へどつとつめかけた応援団、とりわけ吉田、神田平野各市議、自分がやっている様な気のもみ方「勝つてくれよ、一杯出すぞ」＝吉田市議「どうも投手交替が早まったかな」＝神田市議「イヤ気がもめて寿命が縮まるよ」＝平野市議これにまけないのが課長連、大部分が観戦「オイ優勝したらビール三ダース出すぞ」中々数字をあげて細かい。

凡プレーが二回続き同点から一点負けこしになった柏崎市チーム、延長戦で堂々二点を入れサヨナラ勝ちあの凡プレーは酒に目がくらんだというものあり、あのサヨナラ勝はビールのおかげだと言うものあり、これじゃ選手が気の毒ですよ。ともあれ、決勝戦まで五試合中、三試合延長戦、四試合が一点差の勝、三試合がサヨナラ勝ちという柏崎市チームの斗魂に敬意を表す次第である。

× ×

男子バレーはこれに較べ全くの楽勝、今回の大会まで十三回中、優勝しなかったのは只の二回、十一回は優勝した柏崎チームの力は大したもの。

× ×

青山学院、成城大学等のバドミントン部の合宿申込も遂に体育館の都合つかず成城大学は中止。青山学院は比角小学校に於て合宿。

× ×

さる一級建築士と語ったら、この人達の中では、体育館の「はり」の高さは七米が基準なのだそうである しかるにバドミントンは最低八米ほしいのである。建築士諸賢も頭を切りかえてもらいたいものである。試みに、大洲、枇杷島等の小学校は大体五・五米級、何も出来ないわけである。使いものになるのは、一中の体育館と講堂、四中、北鯖石中、荒浜小位、この中荒浜小学校は面積が狭すぎてだめ、四中、北中は自校の練習で他校に貸せる所でないという有様、こゝまで言えば市内小学校の体育館の改築の時どうすればよいかどなたでもおわかりでしょうといゝたくなる。

× ×

市、郡の体育指導委員、体育推進員の野外活動訓練は御野立キャンプ場で去る七月十一、十二日開催、約三十名参加、たま〳〵大水害発生のため、講師陣はほとんど出席不能、しかし一同元気よく予定通りやりとげた由。

東西南北

先号に紹介した中村昭三氏（中村石油社長）は市教育委員に選任された。（六月定例市議会）御活躍を心から期待する。

× ×

中村昭三氏は近来ぐんとのして来て、今や柏崎市準硬式野球の代表チームになろうとしている中村石油チームの監督で時には一塁を守る少壮実業家、知らない人のため一筆。

× ×

来る八月二日から五日まである県内都市対抗準硬式

編輯者より

太田さんの原稿中当方でわかる範囲の氏名の誤りは訂正いたしました。又括弧内は多くの場合編輯者に於て記入したものでありますが筆者の御許しをいたゞきたいと思います。この文中に出る大部分の人々は已に物故されておりますが、現在健否住所不明の方もあります。

タコ先生は、市内南下の方本名小林弥一郎、奇行気骨で多くの話題のある方である。柏崎及びその周辺の一応の人で五十五才以上の方なら柏崎尋常高等小学校のタコ先生を知らぬ者はまずモグリと言って差支えない程である。

チャカ先生は西学校町の住人村山元之助さんの事、後年教職を去り政界に活躍したが、独得の行動の人で幾多の話題をまいた方であった。

ベトウマ先生は戸田久吉先生、教職を去り理研等につとめられたこともある。たま〳〵記者の父と同級生であり、珍談もいろ〳〵あるが割愛する。

宝田石油社長のムスコ田代とは田代仁さんの事と思われる。近況全く不明、宝田石油とは柏崎小唄に出る「石油工場にやボーがなる」のボーの元、なつかしい宝田会社のボーは記者等の幼い頃の耳の中に残っている。

早稲田の福田選手とは今尚活躍されている福田雅之助氏の事である。

井上敬英師、遠藤寅一郎氏いずれも二三年前物故。

桑山元尉さんは小樽市で雑こくをあつかい健在。

柏商コートほとんど昔のまゝの場所に、余りかわらない姿で選手を送迎している。

（月橋記）